



TITLE:

倉敷通信

AUTHOR(S):

荒木, 健兒

CITATION:

荒木, 健兒. 倉敷通信. 天界 1932, 12(139): 411-411

ISSUE DATE:

1932-10-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/162272>

RIGHT:

通 信

倉 敷 通 信

光榮!! 賀陽宮恒憲王殿下には、九月24日倉敷市に御着、翌25日市の社會事業施設御見學の御趣で、天文臺にも御來臨の御内命あり、よつて、原名譽臺長御指圖の下に、萬端の準備を整へて御待ち申上げたが、時間の御都合で御立寄りがなかつたのは残念であつた。

原名譽臺長と神戸の改發氏との御厚意から、改發氏の10センチ天體寫眞玉を、倉敷へゆづつていただいた。これは、改發氏のところに、花山の中村先生によつて、13センチ寫眞玉が新につくられたため、不要になつてゐた品である。神戸で長い間働いて偉業を残した逸物で、中村先生の嚴重な検査を経てゐる。星野の有効範圍約七度半で、天候の條件さへ良ければ12等星まで現れる筈である。私は、これを赤道儀にとりつけて、主として星座の撮影を試み、尙進んで黄道光の變化の研究に利用しようと思ふ。

八月15日に、廣島の大橋君が32センチ赤道儀を二枚撮影されたが、いずれも中判である。一枚は望遠鏡だけで、西北から撮られ、遠景が面白く出てゐる縦型である。他の一枚はのぞいてゐる私の後姿と一しよで、西から撮られたから、宿舍がハッキリと出てゐる。これは横型である。會員諸君で望遠鏡を持つて居られる方は多いであらう。「我等の天文臺」なる倉敷天文臺では諸君の愛機の寫眞を集めてアルバムをつくりたいと思ふ。奮つて寫眞の御寄贈を御願する。御禮としては、上記の二種のいずれかを呈上したい。(いずれかを御指定のこと。)既に、福山の廣井、小郡の山田、岡山の後閑、尾道の松本、白杵の龜井、金屋の小楨、大阪の伊達、島田の清水諸君の傑品を拜受してゐる。

15日の曉は西天に月蝕があつた。三好君が三時から起きて來られた。運轉時計の調子をしらべ、お茶をのんでゐる内に時は進んだが、全曇の空ではどうすることも出来ない。しかし、蝕のはじまる頃から俄然好轉し、四時33分には美しい月の姿をあたへられ、37分から45分までに四枚撮影し、再び全曇になつた。實に間一髪の幸運であつた。(9.29) 荒 木 健 兒